

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,299	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,299

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	1,336	t-CO ₂	1,330	t-CO ₂	1,334	t-CO ₂	1,308	t-CO ₂	1,299	t-CO ₂
削減率（対基準年度）			0.5	%	0.2	%	2.1	%	2.8	%
温室効果ガスみなし総排出量					t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対基準年度）					%		%		%	

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度
原単位あたりの排出量									
削減率（対基準年度）			%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量									
削減率（対基準年度）					%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

昨年度は、令和6年度の目標値（対令和3年実績0.5%）を上回り、2.8%削減となりました。一昨年から継続して一部の車両を削減・公共交通機関等へ移行したことによるガソリンの使用量を削減できたこと、また電気使用量を削減できたことが要因になったと思います。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動実践（冷暖房）	<ul style="list-style-type: none"> ・冷房28度、暖房20度の温度設定及びその徹底 ・空調機器の運転時間削減 ・計測機器を活用して、エネルギー管理を継続する。 	取組みの継続・強化	左記取組みの継続実施。
省エネルギー・省資源の行動実践（照明）	<ul style="list-style-type: none"> ・無人エリア、昼休み、時間外の消灯を徹底する。 ・計測機器を活用して、エネルギー管理を継続する。 	取組み継続・強化により電力使用量削減を図る。	左記取組みの継続実施。
自動車等輸送機関に対する対策	<ul style="list-style-type: none"> ・営業車のエコドライブ推進（アイドリングストップ励行、急発進・急加速はしない） ・低燃費の導入推進 ・近隣の営業取引先への移動手段については、自転車を積極的に利用。 	継続的な啓蒙活動。DRを搭載し、エコドライブを推進⇒ガソリン削減	一昨年度から継続的に車両を削減し、公共交通機関の利用を推進しました。ガソリン車を削減し、既存の低燃費車をシェアリングする取組みを推進しました。

指針第2号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ・ ISO14001環境マネジメントシステムによる継続的改善の実施。 ・ 分別パトロールを実施し、再生可能な紙類の分別徹底を各職場に呼びかけ、可燃ゴミ袋への混在をできるかぎり減らすよう努力しています。 ・ 備蓄食品をNPO法人へ寄付し、食品ロスの削減。 ・ 期限間近の備蓄食品を社員食堂でアレンジし提供することで、食品ロスを削減。 ・ 業務での移動に、自転車利用・公共交通機関の利用を推奨。自動車についても可能な限り低燃費車へのシフトを推奨。 ・ 夏季：敷地内の打ち水の実施。（期限切れの備蓄保存水を利用） ・ ビジネスカジュアルの展開により、クールビズをさらに強化

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ・ 看板（サイン）照明の完全OFF・・・引き続き、可能な期間・範囲で継続しています。 ・ 環境Eラーニングを全従業員が受講し、環境保全に関する意識向上を図りました。
